

高鷲地域振興計画



令和3年12月

郡 上 市

高鷲振興事務所

目次

第1章 基本的事項

- (1) 高鷺町の概況 1
- (2) 高鷺町の人口の推計..... 2
- (3) 高鷺町の産業（就業者数と事業所数） 4

第2章 分野別計画

- (1) 産業・雇用 5
- (2) 環境・防災・社会基盤 7
- (3) 健康・福祉 8
- (4) 教育・文化・人づくり 9
- (5) 自治・まちづくり 10

第3章 小さな拠点とネットワークの形成にむけて

- (1) 小さな拠点とネットワークの考え方 12
- (2) エリア設定の考え方 12
- (3) 地域運営の仕組みづくり 13

第4章 高鷺町における小さな拠点とネットワークづくり

- (1) 校区ごとの現状 15
- (2) 高鷺町の主な地域活動団体 17
- (3) 小さな拠点とネットワークづくりの方向性 17

第1章 基本的事項

(1) 高鷲町の概況

高鷲町は、郡上市の北部に位置しており、東部及び北部は高山市荘川町、南部及び西部は白鳥町に隣接しています。東西の長さは約 11.5 km、南北は約 13.0 km、総面積は 103.71km² で、東に鷲ヶ岳 (1,671.6m)、西に大日ヶ岳 (1,708.9m) の二つの大きな山を背負い、北部にひるがの・上野高原、南部に明野高原が広がっています。この二岳に源を発したせせらぎは、ひるがの高原から上野高原の稜線を分水嶺として南北に分流しており、長良川と庄川となってそれぞれ太平洋、日本海へそそいでいます。地域の中央部を流れる長良川の支流である鷲見川、切立川沿いには、既成の段丘状の耕地が広がっていることに加え、ひるがの・上野・明野高原などの戦後の開拓による広大な高原農地が標高約 800~1,000m に分布しています。清流として名高い長良川源流の美しい森林をはじめ、高原の景観はこの地域の財産であり、後世に継承していく必要があります。

気象は太平洋型の気候圏内に入りますが、日本海型内陸気候に属する場合も多くあり、夏は冷涼多雨、冬は寒気が厳しく 12 月から 3 月は根雪に覆われます。このような気象条件と雄大な自然や広大な大地の恵みによって育まれてきた大根や牛乳、ウインタースポーツを「三白産業」と位置づけ、地域づくりに取り組んでいます。現在、大根と牛乳は地域ブランドとして確立しており、スキーやスノーボード等のウインタースポーツは全国有数のスノーリゾートとして発展していることから、今後はグリーンシーズンにおいてもキャンプ等のアウトドアアクティビティや、観光と農業を組み合わせた体験型ツーリズムを活用し、通年型の観光業を推進していく必要があります。

交通の面では、平成 11 年に東海北陸自動車道高鷲 IC が開通、平成 12 年にひるがの高原サービスエリアが開業、平成 21 年にひるがの高原スマート IC が運用開始となりました。さらに平成 31 年 3 月に飛騨清見 IC までの四車線化が完了したことで、都市部を結ぶ道路網が充実しています。アクセスが向上したことで、今後も交流人口や滞在人口の増加が見込まれることから、高鷲町の雄大な自然や三白産業を活かし、更なる発展と持続可能な地域を目指します。



分水嶺公園



初夏の“ひるがの高原大根”畑

(2) 高鷲町の人口の推計

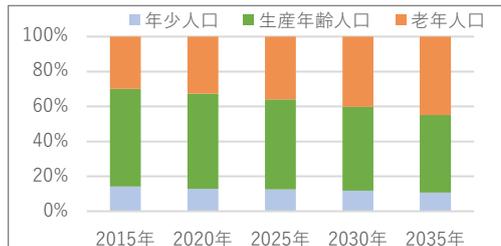
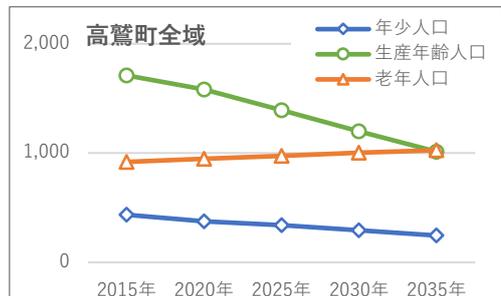
高鷲町全域の人口は、2015年から減少し続ける予測となっています。年代別に見ると、年少人口と生産年齢人口は2015年に比べ2035年にはいずれも40%以上の減少がみられ、老年人口は11.6%の増加となっています。

小学校区ごとの推移をみると、高鷲北小学校区の年少人口と生産年齢人口の減少率が特に大きく、2035年には老年人口が生産年齢人口を上回り、老年人口の割合の増加が顕著に表れています。

【3年齢区分（年少人口：0～14歳、生産年齢人口：15～64歳、老年人口：65歳以上）の人口推移】

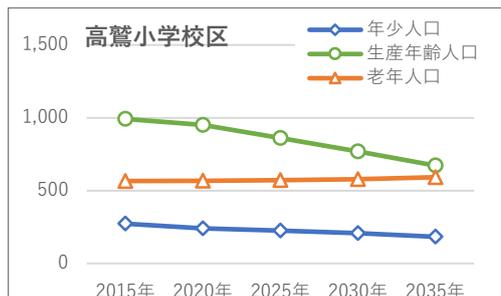
（資料：「将来人口・世帯予測ツールV2（H27国調対応版）データ」）

高鷲町全域	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	435	376	340	294	245 (△43.7)
生産年齢人口	1,711	1,582	1,393	1,200	1,013 (△40.8)
老年人口	919	949	973	1,004	1,026 (11.6)
合計	3,065	2,907	2,706	2,498	2,284 (△25.5)



- ・2035年の年代別人口は、2015年と比べて年少人口で43.7%、生産年齢人口で40.8%の減少率となっている。
- ・老年人口はゆるやかに増加を続け、11.6%の増加となっている。

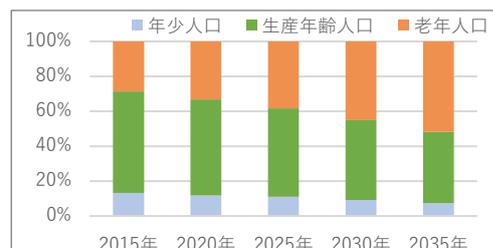
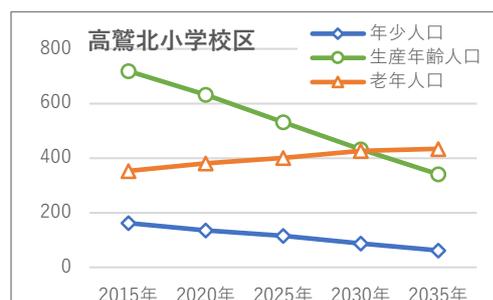
高鷲小学校区	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	273	241	225	207	183 (△32.9)
生産年齢人口	992	950	861	768	672 (△32.2)
老年人口	566	568	572	578	592 (4.5)
合計	1,831	1,759	1,658	1,553	1,447 (△20.9)



- ・高鷲町全域と比べると減少率は緩やかになっている。
- ・年代区分ごとの増減傾向は、町全域と同じ予測を示し、年少人口と生産年齢人口が減少し、老年人口が増加する。

高鷲北学校区	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	162	135	115	87	62 (△61.7)
生産年齢人口	719	632	532	432	341 (△52.5)
老年人口	353	381	401	426	434 (22.9)
合計	1,234	1,148	1,048	945	837 (△32.1)

- ・年少人口と生産年齢人口において、2015年から2035年にかけての減少率が50%を超え、老年人口が20%以上増加することから、高齢化が急速に進む推計となっている。



(3) 高鷲町の産業（就業者数と事業所数）

高鷲町全体では、住民の就業者数に対して地区内事業所の従業者数が多く、他地域から高鷲町内へ就業していることが読み取れます。特に高鷲北小学校区では、住民の就業者数に対し地区内事業所の従業者数が262人も多いことから、高鷲小学校区や他地域からも就業していることが分かります。産業別割合については、すべての小学校区で第3次産業の地区内事業所の従業者数の割合が高く、観光等のサービス産業が盛んな当地域の特色を表しています。

【就業者数及び事業所数の状況】

（資料：①総務省・国勢調査（2015年）、②③経済産業省・経済センサス（2016年））

	項目	人数・ 事業所数	産業別割合		
			第1次産業	第2次産業	第3次産業
高鷲町全体	① 住民の就業者数（人）	1,774	16.46%	22.04%	61.50%
	② 地区内の事業所数（事業所）	257	2.33%	19.46%	78.21%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	1,889	3.18%	17.47%	79.35%
高鷲小学校区	① 住民の就業者数（人）	990	8.99%	24.85%	66.16%
	② 地区内の事業所数（事業所）	142	1.41%	23.24%	75.35%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	843	2.25%	23.61%	74.14%
高鷲北 小学校区	① 住民の就業者数（人）	784	25.89%	18.49%	55.62%
	② 地区内の事業所数（事業所）	115	3.48%	14.78%	81.74%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	1,046	3.92%	12.52%	83.56%

第2章 分野別計画

【まちづくりの方向性】

自然と共存した文化の継承と 安定した生活を送れる地域づくりを進めます

～開拓の心を伝える長良川源流の里「たかす」～

(1) 産業・雇用

【現状と課題】

高鷲町は全国有数のスノーリゾートであり、各地からスキーヤーやスノーボーダーが訪れますが、近年は温暖化による雪不足に加え、スキー人口の減少もあり、最盛期に比べて集客の落ち込みが見られることから、いかにしてインバウンドを取り込むかということに重点を置いて施策を展開しています。それに伴い、多様な文化や人種、言語等に対応したサービス提供が喫緊の課題となっています。また、さらなる集客に結び付けるためグリーンシーズンにおけるスキー場芝地を活用したアクティビティ等を考案していく必要があります。年間を通して観光客を呼び込む方法の確立や、複数箇所を巡り滞在時間を延長する周遊プラン、観光と農業を組み合わせた体験型コンテンツの造成等に取り組むことが重要です。

農業については、担い手の高齢化や後継者不足、荒廃農地の増加が深刻な問題となっています。高鷲の農産物、乳製品などの独自ブランドを守り持続していくため、地域ぐるみで担い手不足解消についての体制づくりを推進していかなければなりません。そのため、この地で農業を行うことを志す移住者への住宅確保を早急に取り組む必要があります。

【目指す将来像】

産業の活性化と雇用を創出する地域

施策 1		スノーリゾート形成の促進
主な取り組み		
1-①	アフタースキーコンテンツの充実	・高鷲町内の各スキー場を結ぶシャトルバスなどを利用したアフタースキーやナイトタイムコンテンツ ^{※1} の充実に向けた支援
1-②	国際競争力の高いリゾート地の形成	・ピクトグラム ^{※2} を活用した観光施設等の案内看板や標識の設置、無料 Wi-Fi 環境の整備促進

※1 ナイトタイムコンテンツ

夜間に実施される観光プログラムや消費活動をいいます。夜景観賞や夜の観光施設巡り、バーやレストランでの飲食など、夜の時間帯に行われる様々な娯楽や活動は、国内外の人を魅了し、訪日外国人を含めた訪問客の滞在時間の延長や消費拡大につながる可能性があり、新たな魅力づくりとして各地で取り組みが始まっています。

※2 ピクトグラム

文字を使わない情報伝達を目的とした、単純化された絵文字のことをいいます。2色で表すことを基本とするデザインで、多くの人の目につく場所である鉄道駅や空港、街の標識などに設置されています。

施策 2		グリーンシーズンのコンテンツ確立
主な取り組み		
2-①	体験型農泊の推進	・たかす開拓記念館の見学や大日ヶ岳登山等と農業体験を組み合わせた体験型農泊の推進
2-②	モデル周遊ルートの確立	・キャンプ場やスキー場芝地を利用したアウトドア体験や花めぐりなどのモデルコースの選定と周遊ルートの確立

施策 3		農業振興による雇用機会の創出
主な取り組み		
3-①	農業者用の住宅支援	・就農者を確保するための空き家改修等の支援
3-②	農業後継者確保への支援	・「人・農地プラン」の策定、中山間地域等直接支払制度や集落戦略作成などの集落全体で農地を守る体制づくりの支援 ・担い手確保のための大学生に向けた農業研修の支援

(2) 環境・防災・社会基盤

【現状と課題】

高鷲町における住民の防災意識は、近年の突発的な豪雨により高まっており、地元防災士と連携した自主防災組織の強化、防災意識向上に向けた教育活動、新たな防災士の育成等が求められています。さらに、要支援者の避難方法の確立や、別荘居住者や住民基本台帳に記載のない住民へどのように情報を伝達するかという課題も残っています。

環境面では、長良川源流地域として豊かな自然と文化を後世に継承することが重要です。しかし、ギフチョウの生息地でありミズバショウの群生地として知られるひるがの地区では、ギフチョウの乱獲が後を絶たないことや、ミズバショウが群生する湿地帯の縮小が問題となっています。このため、高鷲文化財保護協会や高鷲観光協会が中心となってギフチョウの巡視や湿地帯の保護活動を行っており、これらを継続することで環境破壊の抑止につなげていきます。ただし、保護活動を行う団体の会員の高齢化が進み、今後も継続的に活動していくことへの不安があることから、知識をもつ者の育成や活動の継承への取り組みを併せて行っていく必要があります。また、不法投棄・ゴミのポイ捨ても環境悪化の原因となっているため、地域における啓発看板の設置をはじめ、美化運動を継続して実施する必要があります。

【目指す将来像】

防災意識が高く助け合える地域

長良川源流の里として豊かな自然を守り育む地域

施策 1		防災意識の向上
主な取り組み		
1-①	防災教育の推進と防災リーダーの育成	・若年期からの防災意識の向上のため、防災士による小学生を対象とした防災講話等の実施 ・新たな防災士資格者の育成と継続的な普及活動の推進
1-②	防災士の活用	・防災士と自主防災会組織が連携した防災訓練等の取り組みの推進

施策 2		環境保全意識の向上
主な取り組み		
2-①	団体・事業者による活動	・自治会や建設業者等で行う美化運動実施の推進
2-②	環境啓発の強化	・小中学生を対象とした不法投棄防止イラストコンクールの開催 ・不法投棄防止看板の作成、設置

施策 3		蛭ヶ野高層湿原植物群落の保護
主な取り組み		
3-①	生態系と湿原の保護活動	・ひるがの地区におけるギフチョウ生息範囲の確認や乱獲防止を啓発する巡視の実施による貴重な生物と環境保護の推進 ・ミズバショウ群生地における湿地帯維持を目的とするボランティアによる外来種駆除等の保護活動・作業の推進
3-②	保護活動のための人材育成と活用	・保護の知識を有し、活動を継承していく人材の育成支援 ・ボランティアによる保護活動継続の支援

(3) 健康・福祉

【現状と課題】

長寿が誰にとっても当たり前のようになった現代社会においては、ただ長生きするだけでなく、常に生きがいや楽しみをもちながら、健康でいきいきと暮らせることが大切であるといえます。そのためには元気なうちから地域社会や仲間とつながり、健康づくりや体力向上にもつながる教室やイベントを継続して提供し、支援していくことが大切です。また、核家族化が進み、高齢者世帯・独居世帯が増加したことに加え、商店街や喫茶店などの世代を超えて交流し、会話を楽しむ場所が地域内から減少したことなどにより、地域内における支え合いの衰退が問題となっています。そのため、多世代が気軽に集い交流できる場の提供や、活動を支援する必要があります。

子育てに関しては、高鷲町は郡上市の総合的な医療機関から離れていることに加え、特に冬場は積雪による交通面の支障から、様々な交流活動が途絶え孤立しがちな傾向にあり、そのことが妊産婦や子育て世代の不安を増加させる一因となっています。そのため、定期的な子育て交流サロンの開催や、子育て経験者や専門的知識をもつ方からの継続的な支援が必要です。

【目指す将来像】

明るく子育てができる、誰もが健康でいきいきと暮らせる地域

施策 1		高齢者の健康づくり・生きがいづくりへの支援
主な取り組み		
1-①	元気アップ教室の実施	・フレイル予防、認知症予防のため自治会単位での定期的な運動教室の開催
1-②	シニア世代の軽スポーツ活動支援	・グラウンドゴルフ、ウォーキングなどの軽スポーツに積極的に参加してもらえ体制や仕組みづくり
1-③	高齢者が活躍できる場所や機会の提供	・高齢者が自身の知識や経験を活かして社会貢献できる場所や機会の提供と運営への支援

施策 2		多世代間交流施設を利用した活動への支援
主な取り組み		
2-①	多世代間交流施設を利用したイベント活動支援	・各種イベントの開催拠点の一つとなるよう、計画や取り組みについての支援 ・多世代が気軽に集まり会話ができるサロン活動への支援
2-②	多世代間交流施設を利用したミニデイサービスの運営支援	・デイサービスに通うほどではない高齢者の預かりの場の運営支援 ・高齢者を抱える家族を支援する拠点の一つとなるような場所づくりの支援

施策 3		子育て支援環境の充実
主な取り組み		
3-①	子育てサロンの実施	・子育て世代が情報交流できるサロンの充実や、子育て経験者との交流促進
3-②	妊娠から産後までの切れ目のない支援	・妊娠出産時の不安解消のための相談対応、産後の全戸訪問や乳幼児健康相談、各種健診等の推進

(4) 教育・文化・人づくり

【現状と課題】

ライフスタイルや価値観の変化、少子高齢化等により、祭りなどの伝統芸能や地域に根付く伝統行事の継承が困難となっているため、この地域にしかない貴重な伝統文化を後世に守り伝えていく体制づくりが課題となっています。さらに、開拓の歴史を知る世代の高齢化が進み、語り部による活動の衰退も課題となっています。このため、平成28年にたかす町民センター内に開設した「たかす開拓記念館」を拠点に、小中学校と連携したふるさと学習に力を入れるなど、若い世代に地域に根付く伝統行事や開拓の歴史・精神を継承する取り組みを進める必要があります。また、同施設の入館者が伸び悩んでおり、様々な取り組みを計画的・継続的に行うことで、有効な利用促進を図る必要があります。

公民館活動に関しては、青少年育成団体や子ども会と連携し、特に子どもたちに向けた新たな講座の開催や企画を行うなど、未来を担う人材の育成に力を注ぐ必要があります。また、複数のスキー場に恵まれながらも、生涯にわたって積極的にウインタースポーツに取り組む子どもが減っています。現在も学校教育の中でスキーに親しむ授業が取り入れられてはいますが、地元講師と連携し授業の質を高める等、さらなる取り組みが必要です。

【目指す将来像】

開拓精神を未来に受け継ぐ教育活動とウインタースポーツを通じた生涯スポーツの盛んな地域

施策1		将来を担う児童・生徒に向けた活動支援、育成支援
主な取り組み		
1-①	小中高生に向けた公民館活動支援	・公民館活動の一環として、小中高生が自主的に企画・運営する『たかすジュニア文化祭』の開催支援
1-②	小中学生向けウインタースポーツ授業への支援	・地元出身者や地元在住の講師と連携した、質の高いスキー教室の企画や開催の支援

施策2		たかす開拓記念館を活用した開拓史の保存と継承
主な取り組み		
2-①	学校と連携したふるさと学習の開催	・たかす開拓記念館でのふるさと学習を通じた小中高生生の郷土の暮らしや歴史への愛着と興味の醸成、開拓精神の継承
2-②	講座や体験学習の開催	・展示資料及び民俗資料と昔の映像を活用した世代間交流や昔の暮らしに触れる体験学習の開催

施策3		文化財の保護と伝統芸能の伝承保存
主な取り組み		
3-①	文化財の保護	・ボランティアによる有形文化財の保全や継承と貴重なアナログ資料のデジタル記録保存への支援
3-②	伝統芸能の伝承保存	・祭礼や民俗芸能等のデジタル記録保存の推進

(5) 自治・まちづくり

【現状と課題】

高鷲町では、日用品や食料品等の生活に必要な品物を扱う店舗が相次いで閉店していることや、地域内に総合的な医療機関が無いことから、地域外の大型店舗や医療機関へ出かける方が増えています。また、冬季の積雪に加え公共交通機関の便数が乏しいことから、特に高齢者の日常生活に支障が生じています。そのため、地域協議会や社会福祉協議会と連携した買い物支援のほか、自治会や地域協議会と連携し、地域の実情に合った交通体系や仕組みを検討していくことが必要です。同時にそれらの仕組みを動かす地域運営組織を形成し支援していくことで、生活に必要なサービスを維持していく必要があります。

少子高齢化の影響は自治会のコミュニティ活動にも及んでおり、地区によっては祭礼や自治会共同作業等を今までどおり実施することが困難になっています。これからは、効率的な地域コミュニティ活動に向けた運営転換が必要であり、そのためにICTを取り入れるなど、時代に合った活動や運営を支援していきます。近年では、まちづくりに積極的な団体も組織され、地域のために活動をしていることから、これを契機と捉え地域の若者にまちづくりへの参画を促す仕組みを構築し、地域の担い手を確保していく必要があります。また、高齢者の施設入所や死亡等により独居世帯の家屋を中心に空き家が増加しています。新規就農者等の移住者が空き家を活用する事例が増えてきている中、空き家の正確な現状把握ができておらず、需要があるにもかかわらず活かしていないといった課題があります。これらの課題を解決するために、自治会や地域おこし協力隊等と連携し、現状把握と適正な管理指導に努めるとともに、住みたい人と空き家をつなぐ仕組みづくりが必要です。

【目指す将来像】

小さな拠点エリアを新しいコミュニティとして、皆が支えあう地域

施策 1		交通・買い物弱者のための支援
主な取り組み		
1-①	小さな拠点と各集落を結ぶ交通手段の検討	・既存の公共交通の再編や新たな交通手段の検討など、地域の実情に応じた交通体制の検討
1-②	買い物支援の仕組みづくり	・社会福祉協議会や地域協議会、商店と連携した買い物弱者に対する買い物しやすい仕組みづくりの検討
1-③	持続可能な地域の仕組みづくり	・交通手段の検討や買い物支援をきっかけとした地域運営組織の構築支援

施策 2		地域住民の結びつきを深めるための活動
主な取り組み		
2-①	広報紙やSNSによる地域情報の収集や発信	・地域の行事や活動、観光や飲食店の紹介など生活情報の収集と広報紙やSNSによる地域情報の発信
2-②	ICT化による地域コミュニティ活動の効率化や支援	・ICT化により自治会活動の効率的な運営や連絡網の構築、情報伝達などの効率化支援
2-③	地域の担い手確保	・まちづくり団体の育成・支援と若者にまちづくりへの参画を促す仕組みの検討

施策3		空き家対策
主な取り組み		
3-①	移住者に空き家を提供するための調査	・自治会等と連携した空き家のストック調査の実施と、移住者等に向けた基礎資料づくり
3-②	活用できる空き家の移住者とのマッチング	・空き家と移住者をマッチングできる仕組みづくりの推進
3-③	適正な空き家管理の促進	・空き家調査に基づく危険空き家の所有者等への適正な管理指導などの対策促進

第3章 小さな拠点とネットワークの形成にむけて

(1) 小さな拠点とネットワークの考え方

市内には多くの自治会（地区）がありますが、世帯数が50を割るなど、少子高齢化により自治会規模の縮小が進んでいるところも少なくありません。こうした自治会（地区）では、地域住民の安全・安心な暮らしを確保することや祭礼などの伝統行事を維持・継承することのほか自治会共同作業を継続して行っていくことが、今後はより困難になっていくと考えられます。

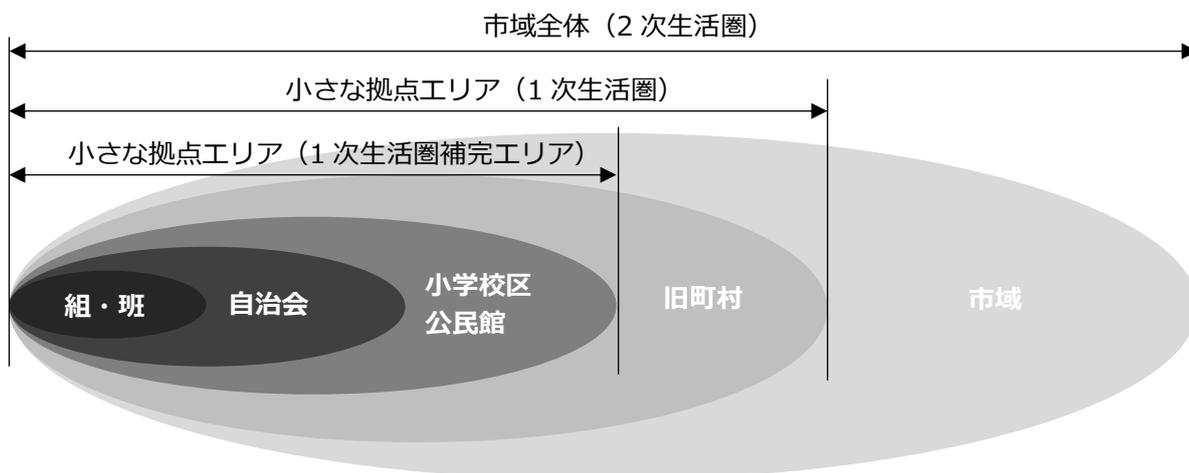
郡上市の人口推移の見通しから、高齢者の割合はますます増加していきませんが、地域活動の担い手となる生産年齢人口の割合はさらに減少していきます。このため、地域的なつながりが強い一定の単位（小さな拠点エリア）において日常の生活を支える機能を集約し、交通、人、情報など様々なネットワークでつなぐ「小さな拠点とネットワーク」の形成と、地域運営組織の構築が急務となっています。

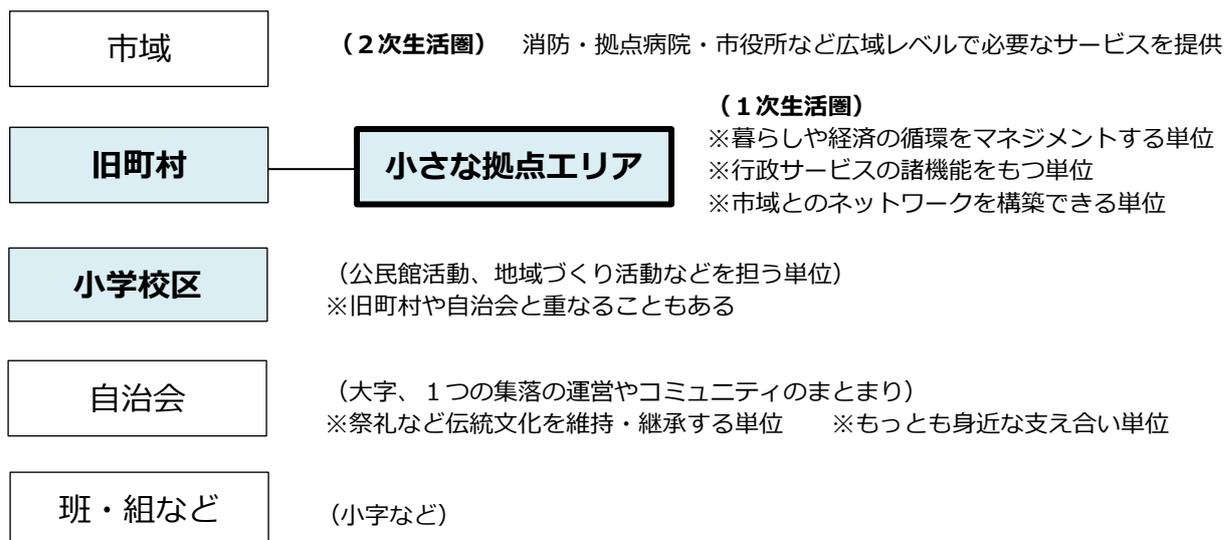
市内には、すでに「小さな拠点とネットワーク」によって地域課題の解決に取り組んでいる地区がいくつかあります。まずはこれらの地区を「モデル地区」として積極的に支援し、地域の実情に合った取り組みを進めながら全市に広げていきたいと考えています。

(2) エリア設定の考え方

地域的なつながりが強い一定の単位（小さな拠点エリア）の設定については、もっとも身近な支え合いが可能となる最小単位のコミュニティや、祭礼などの伝統文化を維持・継承する集落、そして歴史的、文化的経緯を共有できる範囲を考慮する必要があります。市内には班や組、地区会、自治会がありますが、最小の単位を班や組、最大単位を市域（郡上市全域）として捉えた場合に、「小さな拠点エリア」をどのように設定し、設定したエリアの中で「生活拠点」をどのように配置するのか、また生活に必要なサービス等をどのように確保していくのか検討していく必要があります。

郡上市では、こうした考え方のもと、行政サービスの諸機能を有し、市域とのネットワークを構築できる旧町村単位（1次生活圏）を「小さな拠点エリア」と設定しております。ただし、八幡町及び白鳥町については、小学校区を基本とした比較的小規模な単位を、生活や地域コミュニティの形成に最低限必要な一定の機能を有している「小さな拠点エリア」の中にあるサブエリア（1次生活圏補完エリア）として位置付けています。また広域レベルで必要なサービスを提供する消防、拠点病院、市役所などの機能は、2次生活圏として市域全体の中心拠点となる八幡町の市街地エリアに位置付けています。





(3) 地域運営の仕組みづくり

人口減少や少子高齢化が進む中において、地域コミュニティの維持をはじめ、地域で必要な生活サービス等を受け続けられる環境を維持していくためには、住民自らが地域内の課題を自分事として捉え、地域の資金や人材を有効に活用しつつ、住民が主体となって地域での暮らしを支える活動を行うという「住民主体」が基本となります。本計画にある行政が行う施策だけでは解決が困難な地域課題等に対し、今後、住民主体の地域計画（以下「地域運営プラン」という。）を作成し、それを協議、実行していく「地域運営組織」の形成を進めていく必要があります。

「地域運営プラン」や「地域運営組織」を形成していくには、地域の現状を把握し、課題解決に向けた議論や検討が必要となるため、地域の現状を「小さな拠点とネットワーク」（生活拠点として日々の暮らしに必要な機能）という観点から第4章にまとめています。

なお、郡上市では「小さな拠点エリア」を旧町村単位としておりますが、もっとも身近な支え合いが可能となる最小の単位を小学校区として捉え、サブエリアの位置づけのない地域（八幡町、白鳥町以外）についても、小学校区ごとに地域の現状を記載します。

第4章 高鷲町における小さな拠点とネットワークづくり

高鷲町は町全体を1つの小さな拠点エリアとしていますが、小学校区は高鷲小学校区、高鷲北小学校区の2つに分かれています。本章では最も身近な支え合いが可能となる最小の単位を小学校区と捉え、現在の小学校区ごとに地域の現状を記載します。



(1) 校区ごとの現状

【高鷲小学校区】	
校区の商店等	<ul style="list-style-type: none"> ○校区内にあった2つの商店が近年閉店し、食料品や日用雑貨を扱う小売店が2つとコンビニが1つとなっています。また郵便局や金融機関等の施設はこの校区に集中しています。 ○校区内の店舗を利用する場合がありますが、多くの方が白鳥町の大型店舗を利用しています。
公共施設	○郡上市役所高鷲庁舎、高鷲小学校、高鷲中学校、たかす保育園、たかす児童館、たかす町民センター（高鷲南部公民館）、郡上市図書館たかす分室
医療・福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ○医療機関として県北西部地域医療センター国保高鷲診療所、つるだクリニックが、福祉施設として高鷲保健福祉センターこぶし苑、高鷲福祉交流センターがあります。 ○医療・福祉施設はこの校区に集中しており、高鷲北小学校区からの利用もあります。
公共交通の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○白鳥交通の白鳥ひるがの線が、国道156号を平日12便、休日8便運行し、ひるがのと長良川鉄道美濃白鳥駅を結んでいます。 ○高鷲町内の主要施設を回るルートとして自主運行バス鷲見線、鮎立線を運行しており、町内における施設利用等の移動手段として利用されています。 ○タクシー会社が1社あり、地域の高齢者や観光客の足となっています。
校区の特性	<ul style="list-style-type: none"> ○高鷲小学校区は5自治会からなっています。 ○トマト、大根の栽培などが盛んであり、郡上の特産の一つとなっています。 ○郷土料理や農業体験と組み合わせた農泊への取り組みが盛んです。 ○さんさんハウスや福祉交流センターは、乳幼児をもつ親や高齢者など多世代が集う場として利用されています。 ○校区内に東海北陸自動車道の高鷲ICがあり、高鷲町内への玄関口となっています。 ○冬季はスキー客の増加や積雪の影響により、国道や県道が渋滞することがあります。

【高鷲北小学校区】	
校区の商店等	<ul style="list-style-type: none"> ○日用品等を取り扱う店舗として、ひるがの地区にコンビニと個人商店、ひるがの高原サービスエリア内の店舗があります。 ○多くの方が校区内の店舗を利用するほか、校区内にはひるがの高原スマート IC があることから、町外や隣接している市の大型店舗で買い物をする人も多くみられません。
公共施設	○高鷲北小学校、たかす北保育園、たかす北児童館、道の駅大日岳、高鷲ひるがの老人憩いの家（高鷲北部公民館）、上野ふれあい体育館、西洞体育館
医療・福祉施設	○校区内に医療施設等はなく、校区外の施設を利用しています。
公共交通の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○白鳥交通の白鳥ひるがの線が、国道 156 号を平日 12 便、休日 8 便運行し、ひるがのと長良川鉄道美濃白鳥駅を結んでいます。 ○高鷲町内の主要施設を回るルートとして自主運行バス鷲見線を運行しており、町内における施設利用等の移動手段として利用されています。 ○高速名古屋白川郷線と岐阜高山線が東海北陸自動車道を利用し運行しており、ひるがの高原サービスエリアで乗降が可能となっています。
校区の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○高鷲北小学校区は 4 つの自治会からなっており、各自治会間の距離が離れているのが特徴です。 ○公共施設や医療機関、金融機関等の主要施設は高鷲小学校区に集中しているため、どこへ行くにも車での移動が欠かせません。 ○多雪地帯であり、冬期の雪対策に苦慮しています。 ○ひるがの地区では、別荘への移住者や短期滞在者が多いことから、ゴミ問題や災害時の支援・避難誘導などが課題となっています。 ○冷涼な気候を利用した高原野菜や花き、乳製品の生産が盛んです。 ○スキー場やゴルフ場、キャンプ場が多数あり、またテーマパーク（牧歌の里）やアウトドア施設なども整備されていることから、一年を通じて多くの観光客が訪れます。

(2) 高鷲町の主な地域活動団体

分野	地域活動団体
産業・雇用	郡上市商工会高鷲支部 協同組合高鷲観光協会 高鷲スキー場協議会 たかす園芸生産協議会 高鷲町林業グループ たかす農泊実施協議会
健康・福祉	高鷲地区社会福祉協議会 郡上市シニアクラブ連合会高鷲支部 高鷲町民生委員児童委員協議会
環境・防災・社会基盤	郡上市消防団高鷲方面隊 郡上市防災士会
教育・文化・人づくり	高鷲地域公民館 高鷲南部公民館 高鷲北部公民館 高鷲文化財保護協会 明日の青少年を育てる会 郡上市スポーツ推進委員高鷲地域部 高鷲小学校学校運営協議会 高鷲北小学校学校運営協議会 高鷲中学校学校運営協議会 高鷲子ども会育成協議会 NPO 法人郡上市放課後児童クラブ（高鷲放課後児童クラブ）
自治・まちづくり	郡上市自治会連合会高鷲支部 高鷲地域協議会 高鷲山彦会 一般社団法人たかすのす さんさんハウスの会 TAKIMATA 会

(3) 小さな拠点とネットワークづくりの方向性

小さな拠点とネットワークを形成していくには、地域住民が主体となって地域を運営していく地域運営組織の形成が必要となります。高鷲町は町全体を1つの小さな拠点エリアとして設定しており、高鷲地域協議会が中心となって活動しています。近年、まちづくりに積極的な団体も組織されてきており、地域のまちづくりへの機運が高まりつつあります。今後は、高鷲地域協議会とともに、自治会や公民館、既存のまちづくり団体が連携し、高鷲町の将来を見据えて協議を行い、地域運営組織を構築することで持続可能な地域を目指していきます。